

Intelligent Studio（インテリジェントスタジオ）

メディアブリーフ

機密情報：2026年9月29日まで報道解禁。

本資料は、正式発表に先立って報道・記事制作を行う編集部向けに作成されています。資料内の注記は、Imagen社内で現在確認中の項目を示しています。

機密情報：2026年9月29日まで報道解禁。本資料は、正式発表に先立って報道・記事制作を行う編集部向けに作成されています。資料内の注記は、Imagen社内で現在確認中の項目を示しています。

概要

Imagenは、写真家の実際の仕事の進め方をもとに設計された新しい制作環境、Intelligent Studio（インテリジェントスタジオ）を備えた最新アップデートを発表します。

これまで写真編集ソフトでは、セレクト、編集、書き出しといった作業を、ある程度決まった順序で進めることが前提となっていました。

Intelligent Studioでは、その順序に縛られる必要がありません。

写真をセレクトした後に編集し、再びセレクトに戻る。特定の写真だけに別のAI Profile（AIプロファイル）を適用する。プロンプトを使って、ある人物やシーン、瞬間に該当する写真だけを探し出し、そのまま編集する。

こうした作業を行うたびにLightroomへ書き出し、修正してImagenへ戻る必要がなくなります。

今回大きく変わるのは、ツール間を何度も行き来していた作業です。

これまでImagenの外に出る必要があった工程を、より多くImagen内で完結できるようになります。

なお、Intelligent Studioは新しい製品ではありません。既存のImagen製品内に追加されるアップデートとして提供され、ユーザーには段階的に展開されます。

Imagenの考え方：撮影後のワークフローを次の段階へ

Imagenは、ひとつのシンプルな考え方をもとに生まれました。

写真家のスタイル、判断、そして「見る目」は、AIが置き換えるものではなく、守り、活かすべきものである。

写真編集業界では、AIにより多くのクリエイティブな作業を任せる方向へ進む動きもあります。

一方Imagenが目指してきたのは、写真家を画一的なツールに合わせるのではなく、AIが一人ひとりの写真家から学び、その仕事の進め方に合わせていくことです。

今回のアップデートも、その考え方をさらに発展させたものです。

現在提供される機能は、Imagenがこれから目指す写真編集ワークフローの土台となります。

Intelligent Studioは、ひとつの完成された機能ではなく、今後も進化を続ける制作環境です。

Imagenは撮影後のワークフローそのものを次の段階へ進めようとしており、今回のアップデートはその始まりに位置づけられます。

位置づけに関する補足：Imagenは、ギャラリー、CRM、テザー撮影、クライアント納品ツールなどをすべて一つにまとめる「オールインワン製品」を目指しているわけではありません。

Imagenが重視しているのは、写真編集という中核部分をより深く進化させることです。

周辺機能を増やしていくのではなく、写真家が実際に行う編集ワークフローのより深い部分にAIを組み込んでいきます。

背景：なぜ順序に縛られないワークフローなのか

デジタル写真編集ソフトが登場して以来、多くの写真家は、

セレクト → 編集 → 書き出し → 確認・仕上げ → 必要に応じてやり直し

という流れで作業してきました。

しかし、この順序が写真家にとって最適だから設計されたわけではありません。

当時利用できたツールの仕組み上、そうせざるを得なかったという側面があります。

今回変わるのは、単に作業の順番ではありません。

あらかじめ決められた処理を実行するだけでなく、写真家が何をしたいのか、その意図を理解できるAIが登場したことで、より柔軟なワークフローが可能になりました。

写真家の仕事の進め方は、一人ひとり異なります。

すべての写真を自分でセレクトし、最後にまとめて編集する人もいます。

写真を読み込んだ直後にAIで最初の処理を行い、すぐ細かな調整に入りたい人もいます。

完成までの間にセレクトと編集を何度も行き来し、仕上がりをしながら最終的な写真を絞り込む人もいます。

Imagenは、こうした写真家それぞれの仕事の進め方を前提に、固定された順序を取り払います。

AIアシスタントのチャット画面からAIに指示したり、あらかじめ用意されたAIフィルターを使ったりすることで、大量の写真の中から必要な写真をすばやく見つけられるようになります。

すべての写真家に同じ手順を求めるのではなく、写真家自身がAIを使いながら、自分に合った方法でワークフローを進められる環境を目指しています。

そのため、エディターをImagen内に直接組み込むことには、単なる利便性以上の意味があります。

セレクトと編集を同じ場所で行えるようになれば、その2つを決まった順序で行う必要はありません。

途中で仕上がりを確認するためだけに別のソフトへ書き出す必要もなくなります。

より多くの作業をImagen内で完結できることで、ツール間を行き来する時間や手間を減らすことができます。

新機能

本格的な内蔵エディター

Imagenでは今回初めて、本格的な手動編集をImagen内で直接行えるようになります。

RAWおよびJPEGファイルに対応

手動調整用スライダー、マスク、プリセット、レタッチツールを搭載

編集結果をImagen内ですぐに確認でき、確認のために別のソフトへ書き出す必要がありません

編集途中の選択した写真に、追加のAI プロファイルを適用できます。これにより、Imagenが学習した編集スタイルをセット全体に適用するだけでなく、写真ごとにどのスタイルを反映するかをより細かくコントロールできます

完成した写真は、同じ作業環境からそのまま書き出すことができます

AI プロファイルに関するリリース時の注意点： 編集途中にAI プロファイルを適用した場合、初期リリースでは結果が即時に反映されるのではなく、短い処理時間が発生します。リアルタイムでの適用は今後の目標であり、初回リリースには含まれません。

内蔵エディターの主な機能

Imagenの内蔵エディターでは、写真の仕上げに必要な幅広い手動調整を行えます。プロ向けの編集項目として、以下の機能が用意されています。

基本補正 —

ホワイトバランス、露出、コントラスト、ハイライト、シャドウ、テクスチャ、明瞭度、自然な彩度、彩度

トーンカーブ — RGBカーブを自由に操作できるモードと、狙った明るさの範囲を調整するパラメトリックモード

HSL — 8つの色域それぞれに対する色相、彩度、輝度の個別調整

ポイントカラー — 写真内の特定の色を指定し、細かく調整。1枚の写真につき最大8色まで設定可能

カラーグレーディング — シャドウ、ミッドトーン、ハイライト、または画像全体の色味を調整

ディテール — シャープネス、輝度ノイズ、カラーノイズを個別に調整

レンズ補正 —

レンズプロファイルに基づき、歪み、周辺光量、色収差を自動補正。フリッジを手動で調整することも可能

ジオメトリ — パース補正、水平・垂直方向の調整、建築写真の補正。自動垂直補正にも対応

効果 — ビネットやフィルムグレインなど、仕上げの表現を加えるための調整

キャリブレーション — 複数の写真に共通して現れる色かぶりなどを補正するための、より詳細な色調整

さらに、クロップや傾き補正、編集画面から直接適用できるAIプロファイル、1枚または複数の写真に適用できるAI機能も搭載します。

手動でマスクを作成することに加え、ImagenのAIが自動生成したマスクを調整することもできます。

作成した編集設定は、再利用可能なプリセットとして保存できます。

AIアシスタント：1つの指示で複数の作業をまとめて実行

写真家は、自分の言葉でImagenに指示することができます。

AIアシスタントでは、メニューの中から必要な機能を探したり、ギャラリー全体に同じ作業を繰り返したりする代わりに、やりたいことを言葉で伝えることができます。

1つの指示から、

検索 → 選択 → 調整

といった複数の作業をまとめて実行できるため、撮影終了から最終的な納品までの作業をより短く、スムーズにつなげることができます。

リリース時に確認済みのプロンプト例

プロンプト例：

追加のプロンプト例（提供可否は確認中）

※リリース時の対応可否は確認中

以下のプロンプトは、Imagen Studioが対応するよう設計されている範囲を示すものです。

AIフィルター

AI フィルターは、AIアシスタントと同じAI技術を利用しています。

手動でタグ付けしなくても、人物、シーン、撮影した瞬間などをもとに写真を抽出することができます。

これまで大量の写真を一枚ずつ目で確認しなければならなかったギャラリーでも、必要な写真にすばやく絞り込むことができます。

一人ひとりの写真家に合わせて進化するAI

ImagenのAIは、すでに写真家一人ひとりの編集スタイルを学習しています。

Intelligent Studioでは、さらにその先へ進みます。

Imagenは、これまでLightroom上で行われてきた編集だけでなく、Imagen内で写真家自身がどのように編集しているのかを直接学習する、独自のAIモデルを開発しています。

これによりLightroomは、Imagenの学習機能が依存する場所ではなく、写真家が使用する複数のツールの一つという位置づけになります。

今後Imagenは、この仕組みをさらに発展させ、写真家が操作する単なるツールというよりも、その人の仕事の進め方を理解しているアシスタントのように感じられる機能へと進化させていく予定です。

将来的に目指している機能

パターンの認識 たとえば、ある写真家がウェディングのたびにモノクロ写真4枚でお客様向けのプレビューを作成している場合、その傾向をIntelligent Studioが学習し、次回同じ作業を提案できるようになります。

過去の作業をもとにした提案 一般的な指摘をするだけでなく、写真家が以前どのような修正を行ったかをImagenが記憶し、「前回と同じように、非常口のサインを削除しますか？」といった提案を行えるようになります。

スタイルの一貫性 その写真家が普段持っている基本的な編集スタイルと、特定の撮影で意図的に選んだ表現の違いを理解し、その両方に合った仕上がりを目指します。

重要：これらの機能は、今後の開発方針を示すロードマップ上の機能であり、ローンチ時の提供を確約するものではありません。

同じAI技術を活用して大量の写真を自動的に仕分ける一括セレクト機能も、今後の機能として計画されています。

Lightroomとの連携

Intelligent Studioは、Lightroomの代替製品として位置づけられているわけではありません。

現在のワークフローにLightroomを取り入れている写真家は、これまでどおり利用できます。

希望する場合は、元データの読み込みから最終的な書き出しまで、Imagenから離れずにプロジェクト全体を完了できるようにします。

これまでと同じように、ImagenとLightroomの両方を使ってワークフローを進めることもできます。

ただし、Imagenの内蔵エディターで編集した写真は、Lightroom互換ファイルとしてLightroom側へ同期し直されるわけではありません。

料金

Intelligent Studioでは、書き出しを基準とした新しい料金体系を導入します。

現在の従量課金では、AI機能を適用した時点で料金が発生するため、結果を見る前にコストがかかる場合があります。

そのため、新しい編集やAI機能を気軽に試しにくいという課題がありました。

新しい料金体系では、Imagen内で自由にさまざまな編集を試し、最終的に書き出す写真に対してのみ料金を支払います。

Imagenでは、以下の2つの料金プランを提供しています。

従量課金プラン — 月額最低7米ドル＋利用量に応じた料金

Limitless(リミットレス) — 個別の利用料金を気にせず使いたい写真家向けの月額定額プラン

対象ユーザー

Intelligent Studioは、Imagenがこれまでサポートしてきたウェディング、ポートレート、不動産、商業撮影といった主要な撮影分野に引き続き対応します。Intelligent Studioは、プロの写真家のために設計されています。

報道用ビジュアル素材

Imagenは、記事・報道制作向けに以下のビジュアル素材を提供します。

キービジュアル

製品画面のスクリーンショット

ビフォー・アフターの作例

Imagen Studioを試用するためのサンプルギャラリー（JPEGおよびRAWファイル）

可能な場合は、より実際の使用感が伝わるよう、ご自身の写真を使用し、ご自身でスクリーンショットを作成することを推奨します。

提供開始時期と段階的な展開

レビュー・パートナー向けバージョン提供開始：2026年9月16日

一般向け正式公開：2026年9月29日

正式公開後、数週間をかけてユーザーへ段階的に展開されます。9月29日の時点ですべてのユーザーが利用できるわけではありません

新たな登録手続きは不要です。Intelligent Studioは、既存のImagen製品内のアップデートとして提供されます

報道時の重要事項

段階的な展開となるため、「9月29日から段階的に提供開始」などの表現を推奨します。

「9月29日からすべてのユーザーが利用可能」「現在すべてのユーザーに提供中」など、すべてのユーザーが一斉に利用できるように受け取られる表現は避けてください。

レビュー版での制限事項

正式リリース前のレビュー版を試用するメディア関係者は、レビュー時点で利用できる機能と、本資料で今後の方向性として紹介している内容との間に、一部違いがあることにご留意ください。

主な制限事項は以下のとおりです。

「一人ひとりの写真家に合わせて進化するAI」で紹介している将来機能の一部（過去の作業をもとにした提案、一括セレクトなど）は、レビュー版には搭載されません

現段階では、レタッチ機能の細かな調整が一部制限される可能性があります（確認中）

主要人物の検出、室内／ロケーションの判別など、一部のAI
フィルターがレビュー版では有効になっていない可能性があります（確認中）

Imagenについて

Imagenは、プロの写真家・映像クリエイター向けに、セレクト、編集、レタッチ、納品まで、撮影後のワークフロー全体をAIで支援するサービスです。

すべての写真を同じように処理するのではなく、一人ひとりの写真家が持つ編集スタイルをAIが学習し、そのスタイルを作品全体に一貫して反映します。

Imagenは、セレクト、編集、レタッチから納品まで、撮影後に必要となる一連の作業をサポートしています。

ウェディング、ポートレート、不動産、商業撮影など、幅広い分野で世界中の写真家・映像クリエイターに利用されています。

報道時の推奨表現・注意事項

推奨

今回の発表は新製品ではなく、Imagenの「最新アップデート」または「新しいバージョン」として紹介してください。

写真家自身が主導権を持ち、AIはその作業を支援する存在であることが伝わる表現を推奨します。AIが写真家に代わって判断したり、写真家そのものを置き換えたりするものではありません。

Lightroomをワークフローに取り入れたいユーザーは、引き続きLightroomを利用できることを記載してください。

避けていただきたい表現

正式リリース時に提供される機能と、今後提供を予定している機能を混同しないようご注意ください。将来のロードマップに含まれる機能を、リリース時点ですでに利用できる機能として紹介することは避けてください。

詳細については、本資料の「一人ひとりの写真家に合わせて進化するAI」「AIフィルター」「レビュー版での制限事項」をご確認ください。

カテゴリー	プロンプト例
セレクトと選択	キーパーと単独カットをすべて5つ星に設定して
セレクトと選択	選択したすべての写真の露出を0.2上げて
セレクトと選択	キーパーフラグを外して、ピンぼけの写真を除外して
セレクトと選択	F1.4で撮影したすべての写真に緑のラベルを付けて

カテゴリー	プロンプト例
仕上がり	挙式の写真だけをモノクロにして
条件付き編集	ISO 2000を超える写真すべてにノイズ除去を適用して
条件付き編集	10人を超えるグループ写真で、ロケーションの写真にはPortra400、室内で撮影した写真にはFujji800を適用して
ワークフロー／スタジオ	準備、挙式、披露宴に分けてグループ化し、ラベルを付けて
ワークフロー／スタジオ	前回のパスで却下した写真だけ、編集を再実行して
確認・分析	キーパーが何枚あるか、シーン別に教えて
セレクト	花嫁が写っている写真をすべて見せて

カテゴリー	プロンプト例
条件付き編集	挙式写真の中から花嫁が写っている写真をすべて見つけて、ハイライトを上げて
セレクト	目を閉じている写真とピントが合っていない写真をすべて1つ星にして
仕上がり	披露宴の写真を、いつもの私のスタイルより少し暖かく、少しムーディーにして
セレクト	全員の目が開いているグループ写真をすべて見せて
セレクト	花、風景、景観の写真をすべて見せて

リソース

製品画面のスクリーンショット、動画、その他の報道用素材はこちらからご確認いただけます。

▶ **報道用リソース・メディア素材を開く**